科目名	医学英語	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	岩渕美嘉
		授業形態	講義		有		
（英）	Medical English	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜日　1限

講師紹介	大学で英米文学を専攻、海外貿易事務を経験した後、視能訓練士免許を取得し、視能訓練士として病院・眼科クリニックで臨床経験を経てから2年間のアメリカ滞在をし帰国後、英語教師となり、豊富な実務経験を積む。2003年より滋慶学園グループ専門学校視能訓練士科で医学英語を教えている。
目的	医療現場では日常的に英単語・英略語が使われている。外国人の増加に伴い、英語でコミュニケーションを取る場面も多くなり、英語の必要性は高まっている。眼科臨床に必要な英語を学び、外国人の患者さんとコミュニケーションを取ることができるよう、簡単な会話表現を習得する。
科目概要	眼科に関する英単語を学び、臨床現場で想定される英会話表現を習得する。
到達目標	医療現場、特に眼科に必要な専門英語を覚え、英文読解を行いながら、目の解剖や屈折異常についての理解を深める。 将来眼科に勤務した際、外国人の患者さんに英語で問診や検査を行うことができるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	医療英語コミュニケーション	事前事後学習とその内容	毎回の授業で眼科専門用語、英略語を学び、次の授業で単語テストを行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	自己紹介と病院受付での会話	講義	英語で自己紹介　&　初診かどうか、保険証を持っているか等を尋ねる表現を練習する
2	痛みについて問診	講義	身体の部位や痛みの表現を学び、英語で簡単な問診を練習する
3	症状についての問診	講義	さまざまな症状を学び、その症状がどのくらい続いているかを尋ねる練習をする
4	既往歴、家族歴の問診	講義	主な全身疾患を学び、既往歴や家族歴について尋ねる練習をする
5	生活習慣についての問診	講義	アレルギーや生活習慣について尋ねる練習をする
6	英文読解　眼の解剖	講義	眼の解剖の基本単語を学び、英文読解に慣れる
7	英文読解　視覚の仕組み	講義	視覚の仕組みについての基本単語を学び、英文読解に慣れる
8	復習試験　検査時の英語表現	講義	筆記試験　&　検査を行う際、患者さんに指示や依頼をする英語表現を練習をする
9	英文読解　屈折異常（近視）	講義	屈折異常に関連する英単語や眼疾病の英略語を学び、英文読解を通じて屈折異常についての理解を深める
10	英文読解　屈折異常（遠視）	講義	屈折異常に関連する英単語を学び、英文読解を通じて屈折異常についての理解を深める
11	英文読解　屈折異常（乱視＆老視）	講義	屈折異常に関連する英単語を学び、英文読解を通じて屈折異常についての理解を深める
12	英文読解(屈折異常)と英語で視力検査	講義	屈折異常についての理解を深め、英語で視力検査ができるようになる
13	薬の説明	講義	薬の英語名称を学び、服用方法の説明表現を練習する
14	院内案内	講義	診療科の名称と道案内する際の表現を学び、病院内の案内を練習する
15	期末試験	講義	筆記試験

科目名	眼科基礎理数	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	坪田　美奈子
		授業形態	講義				
（英）	Basic Sience and Mathematics	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	火曜日　2限

講師紹介	大学受験予備校で受験指導と教科（英語、数学、生物、化学）学習支援を業務とし、23年務める。並行して2012年より地域で個別学習塾を運営。
目的	視能訓練士として必要な計算力の向上と、文章から数値への変換を身に着けることで数学的思考を身に着ける。 また、理科分野に置ける「光」「音」の法則を理解し、生理光学・視覚生理学の基礎を身に着ける。
科目概要	四則計算から小数、分数、の計算、負の数、単位換算
到達目標	すべての計算ができるようになる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	小中学校9年分の算数・数学がわかる本	事前事後学習とその内容	毎回授業後に小テストを実施する
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 今の計算力を確認	講義	100マス計算を使って今の計算力を確認する
2	単位換算	講義	様々な単位に関する換算を身に着ける。
3	分数、小数の計算	講義	分数・小数の値で四則演算を行う。
4	正の数　負の数	講義	正の数、負の数で四則演算を行う。
5	１００分率　歩合	講義	100分率の考え、計算を身に着ける。
6	平方根	講義	平方根を用いた計算を身に着ける。
7	1次方程式	講義	Xの使い方を理解する。
8	復習テスト	講義	
9	文章から数値への変換①	講義	これまでの計算を用いた文章題
10	文章から数値への変換②	講義	これまでの計算を用いた文章題
11	光の法則	講義	光の特性を理解する
12	音の法則	講義	音の特性を理解する
13	文章から数値への変換③	講義	光や音の法則を使った文章題
14	総復習	講義	わからないところを再確認
15	期末テスト	講義	

科目名	コンピューター演習（1/2）	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	野坂　まりえ
		授業形態	演習		無		
（英）	computer　exercises	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	4			曜日/時間	火曜日1限：対面、7月集中講義：対面

講師紹介	滋慶学園グループのグループ企業(株)ブレーンスタッフコンサルタンツに所属しているラーニングマネージャーが、 卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化したオリジナルのe-learning（インターネット上のテキスト）を使用
目的	Wordの文章作成やPowerPointのスライド作成を実践的に学習することで、卒業研究や就職後に必要となるパソコンスキルの習得を目指す
科目概要	PC基本操作、Word文章作成、PowerPointスライド作成と発表
到達目標	・情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用した複合文書を作成できる ・PowerPointを利用して訴求力のあるプレゼンテーションの為の効果的なスライドを作成して発表できる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。

教科書	オリジナルのe-learningテキストを使用	事前事後学習とその内容	事後学習として、e-learning教材の文章説明や動画を活用して操作手順を復習する
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	講座を受講する意義を理解し、IT/DXリテラシーを知り、情報を正しく活用できる	演習	・講座を受講する意義 ・インターネットの情報を理解し、安全にインターネット利用ができる知識や能力を身につける
2	クラウドの特徴を理解し、活用できる	演習	・PCクラウド活用の意義　・OneDriveやTeamsの活用について ・Outlook（メーラー）の使い方、メールのマナー
3	Windowsの基本操作ができる	演習	・マウス、タッチパッドの操作　・ファイルの管理 ・タイピング
4	検索力を身につけ問題を解決できるようになる	演習	・検索ツールの使い分けと効果的な検索方法 ・生成AI利活用にあたってのガイドライン・注意事項
5	Wordソフトを使って、文書作成の基本的な操作ができる	演習	1.Wordの概要、2.文書作成の基本的な流れ、3.ページ設定、4.文字の書式設定 5..図形・画像などの挿入、6. 表の作成、7.ページ罫線
6	Wordの機能を使用し色彩や配色を意識して院内ポスターを作成できる	演習	1.色について、2.相談時間ポスター作成、3.オリジナルポスター作成
7	学習したWord操作を実践できる	演習	Word講義で学習した内容を総復習
8	プレゼンテーションソフトの基本操作ができる	演習	1.テーマとバリエーション、2.プレースホルダー、3.箇条書きのレベル変更 4. スライド、5.ノートの作成
9	図形や画像を活用したスライドを作成できる	演習	1.ワードアート、2. 画像の挿入、3. テキストボックス 4.図形作成、5.図形の調整、6.図形の書式設定、7.削除
10	スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる	演習	1.画面切り替え効果の設定、2.アニメーション効果の設定 3. スライドショー、4. 印刷、5.リハーサル
11	作成したスライドを訴求力のある内容にブラッシュアップできる	演習	文字サイズや色の変更、アニメーションの設定や図解の活用
12	作成したスライドを使って発表できる1	演習	発表・評価
13	作成したスライドを使って発表できる2	演習	.発表・評価
14	学習したPowerPoint操作を実践できる	演習	PowerPoint講義で学習した内容を総復習
15	PowerPoint定期試験	演習	PowerPoint講義で学習した内容を実践的に活用する

科目名	コンピューター演習(2/2)	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	野坂　まりえ
		授業形態	演習		無		
(英)	computer　exercises	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	4			曜日/時間	火曜日1限:対面、7月集中講義:対面

講師紹介	滋慶学園グループのグループ企業(株)ブレーンスタッフコンサルタンツに所属しているラーニングマネージャーが、 卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化したオリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用
目的	情報を扱うための正しい知識を身に着け、Excelの基本操作や統計処理を実践的に学習することで、卒業研究や就職後に必要となるパソコンスキルの習得を目指す
科目概要	AIリテラシー、Excel基本操作、Excel統計処理
到達目標	・情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる、Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活かすことができる
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他(　　)

教科書	オリジナルのe-learningテキストを使用	事前事後学習とその内容	事後学習として、e-learning教材の文章説明や動画を活用して操作手順を復習する
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	身近なAIを知り、適正かつ有効に活用できる	演習	1.　社会でのAI活用事例、2.　AIでできること、できないこと 3.　画像認識体験、4.　AIの欠点や問題点
2	AIブームの背景を知り、実際に体験を通して機械学習のしくみを理解できる	演習	1.AIとの協働事例、2.機械学習体験、3.AIブームの歴史
3	Webコミュニケーションついて正しく理解できる	演習	1.Webコミュニケーションの危険と対策、2.モバイル機器の活用と管理
4	データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	演習	1.平均、中央値、最頻値、2.外れ値、異常値、欠損値、3.データの分類 4.相関、因果関係、疑似相関、5.不適切なグラフ表現(詐欺グラフ)
5	Excelソフトの基本操作ができる	演習	1.セルの書式設定、2.数値の書式設定、3.罫線の設定
6	Excelソフトを使って、企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる	演習	1 表の作成(復習)、2.オートフィル、3.数式の作成 4.SUM関数、5.グラフ作成、6.印刷
7	Excelソフトを使って、関数を駆使した資料を作成できる	演習	1.割合を求める、2.相対参照と絶対参照、3. AVERAGE関数 4.COUNTIF関数、5. シートの操作
8	Excelソフトを使って、グラフを駆使した資料を作成できる	演習	1.目的に応じたグラフ作成、2.グラフのレイアウト、3.行や列の挿入 4.グラフの編集、5.目的に応じたグラフ作成2
9	Excelソフトのデータベース機能を理解し活用できる	演習	1.データベースとは、2.データを並び替える、3.フィルター 4.ウインドウ枠の固定、5.大きな表を効率良く印刷する
10	平均・分散・標準偏差 「データの特徴を数値化できる」	演習	統計講座の意義 1.平均、2.分散、3.標準偏差
11	基本統計量・度数分布表とヒストグラム 「データの特徴を視覚化できる1」	演習	分析ツール 1.基本統計量、2.度数分布表とヒストグラム
12	散布図・相関係数 「データの特徴を視覚化できる2」	演習	1.散布図、2.相関係数
13	学習した統計操作を実践できる	演習	初級データサイエンス(I統計)講義で学習した内容を総復習
14	学習したExcel操作を実践できる	演習	Excel講義で学習した内容を総復習
15	Exel定期試験	演習	Excel講義で学習した内容を実践的に活用する

科目名	倫理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	高橋 理
		授業形態	講義		有		
（英）	ethics	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	金曜日　2限 選択

講師紹介	保有資格：　歯科医師，歯学博士 略　　歴：　神経解剖学を専門研究分野として学位論文テーマは三叉神経系，「マーティン神経解剖学，西村書店」の「前庭系と動眼系」章を2007，2015年に翻訳，雑誌「神経眼科」24(2)pp142-147(2007)に総説を依頼執筆，日本解剖学会と日本神経科学学会にて学会活動を今日まで継続した．
目的	社会的なニーズの高まる人々の目の健康について外来での患者対応をベストのレベルに保つために，背景となる社会学的，医学的な知識を医療現場に還元でき，また実践できる視能訓練士に挑戦していただきたいと考える．そのためにも，業務に直結する内容を本授業では担当する．
科目概要	眼科領域に必要な解剖学，および医療倫理学について体系的に学習する．
到達目標	現代日本の社会的要求の高まる医療現場において，多科連携を視野に入れた眼科解剖学，ならびに一般倫理学と医療倫理学の基本的な概念を理解でき説明できる．さらに必要な分野との相互支援的思考を養うことができる．
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	配布プリントを用いる．	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について解剖体の一部を用いるので，写真撮影及び録音録画を許可しない。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション，眼科解剖学①　視覚器・総論□	講義	1. 眼科解剖学と倫理学の概念 2. 視覚器の発生と眼球の構成
2	眼科解剖学②　視覚器・各論　眼球	講義	1. 眼球の角膜，強膜，結膜，脈絡膜，毛様体 2. 人体における視覚器の位置づけ
3	眼科解剖学③　視覚器・各論　眼球の血管と神経	講義	1. 眼球の虹彩，網膜，視神経 2. 人体における視覚器の位置づけ
4	倫理学①	講義	1. 伝統的な医の倫理から新しい医の倫理へ
5	倫理学②	講義	1. 患者の権利
6	倫理学③	講義	1. QOL（quality of life，生命の質）
7	倫理学④	講義	1. セカンド・オピニオン 2. 個人情報の守秘義務
8	中間テスト	講義	眼科解剖学と倫理学①～④の総復習，および知識の定着
9	倫理学⑤	講義	1. 生命の始まりに関する倫理的問題
10	倫理学⑥	講義	1. 生命の選別
11	倫理学⑦	講義	1. 生命の始まりに関するその他の倫理的問題
12	倫理学⑧	講義	1. 生命の終わりに関する倫理的問題
13	倫理学⑨	講義	1. 臓器移植 2. 再生医療
14	倫理学⑩	講義	1. 性差医療
15	定期試験	講義	眼科解剖学と倫理学の総復習および知識の定着□

科目名	コミュニケーション技法	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	花澤　真里子
		授業形態	講義				
（英）	Communication　skills	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	集中講義、水曜日1.2限

講師紹介	保有資格：2級キャリアコンサルティング技能士、メンタルヘルスマネジメント　ラインⅡ種、AFP 国際線客室乗務員30年の経験を生かしたビジネスマナー、コミュニケーションを中心とした研修が得意である。JALでの客室訓練部教官経験を生かしJAL退職後の講師経験は14年以上で豊富な実務経験を有する。キャリアコンサルタントの資格を生かし、医療機関での患者様対応研修、コミュニケーション研修、キャリアガイダンスや研修後のカウンセリング実績がある。
目的	視能訓練士としてだけではなく、社会人として通用するコミュニケーション力を身に付ける。
科目概要	①コミュニケーション力②基本スキル③自己表現スキル④社会的スキル⑤サービスマインド　のスキルを身に付ける
到達目標	・コミュニケーションとは具体的に何かを理解し、その手法を身に付ける。 ・コミュニケーションスキルを上げるベースには、マナーのスキルが必要だという事を理解し、行動出来るようになる。 社会人基礎力が何であるかを理解し、高める。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	コミュニケーションスキルアップ検定	事前事後学習とその内容	各授業終了後に、翌日からの「行動目標」を考えて、記入する。
参考図書			
特記事項	必要に応じて、パワーポイント資料を作成し使用する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションの定義	講義	自己紹介をわかりやすくする。クラスメイトを知る コミュニケーション　マナーとは何か
2	コミュニケーションのプロセス マナーの5原則 「話す」の基本	講義	1対1の会話 「話す」の基本
3	「聴く」の基本	講義	「聴く」スキルを磨く
4	上手な質問の仕方 相手の気持ちや考えを読み取る	講義	「質問」スキルを磨く質問
5	ノンバーバル・バーバルコミュニケーション	講義	好感を持たれる第一印象を身に付ける
6	グループでの会話	講義	グループでの会話力を磨く
7	人間関係を円滑にする表現技術	講義	人間関係の基礎を知る/頼み方、断り方、自己主張
8	中間テスト	講義	中間テスト ここまでのまとめと復習
9	仕事の基本「報告」「連絡」「相談」	講義	「ホウレンソウ」を理解する 「話す内容」を考え「プレゼンテーション」ができるようになる
10	会議でのスキルを付ける	講義	交渉・説得 「プレゼンテーション」する
11	アンガーマネジメント	講義	「怒りの感情」「怒り」との付き合い方を理解する
12	基本的な社会人スキル	講義	社会人としての「言葉遣い」を理解し、使えるようになる
13	電話対応　メールのマナー	講義	電話の基本を学び、電話対応が上手にできるようになる ビジネスメールがかけるようになる。
14	接客・患者様対応スキル	講義	患者様対応、接遇を身に付ける
15	定期試験	講義	15階の復習・まとめ （筆記試験）

科目名	心理学　Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	福井　博一
		授業形態	講義		有		
（英）	Psychology　Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日／2限

講師紹介	保有資格：公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士 略歴：精神病院・総合病院精神科・企業の相談室等でカウンセリングや心理検査を行い、豊富な実務経験を有し、講師として専門学校をはじめ大学・大学院等において、心理学や臨床心理学の講義を行う。
目的	対人援助職である視能訓練士として、人の心理・発達について理解し、説明することができるようになることを目的とします。 具体的には、多様な環境に置かれた、あらゆる世代の人々の心理・発達を学習することにより、資格者として、援助を求める人々と実践的にかかわることができるようになるための基礎を身に付けることを目的とします。
科目概要	心理学の中でも、特に、発達心理学を中心に据えて、幅広い視点で人の心をとらえていきます。
到達目標	視能訓練士は、れっきとした対人援助職です。 皆さんが資格者としてかかわる人々は、たんに視覚によってのみ生きているわけではありません。目は、その人の一部にほかなりません。 その人そのものとかかわるために、聴くこと、知ること、考えること、理解すること、そして実践することができることを到達目標とします。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	特に指定しません。講師作成の資料を配布します。	事前事後学習とその内容	予習は必要ありません。復習をしっかりと行ってください。 また、授業で学習した事柄を、日常生活にあてはめて考え、実践することは、とても重要な事後学習になります。
参考図書	適宜紹介します。		
特記事項	学生の皆さんには、授業中、折に触れて資料を読んでもらうなり、意見等・声をあげてもらうなりしながら進めます。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション・心理学概説	講義	・心理学を学ぶ目的・予定・方法について説明する。 ・心理学、心について考える。 ・発達区分について説明する。
2	人の発達	講義	・人の発達について考え、説明する。 ・乳幼児期の身体発達について考え、説明する。
3	親子関係と心の発達～その1～	講義	・幼少期の親子関係について考え、説明する。 ・幼少期の親子関係が、その後の対人関係に影響を与えることについて考え、説明する。
4	親子関係と心の発達～その2～	講義	・ひきこもりについて考え、説明する。 ・反抗期について考え、説明する。
5	親子関係と心の発達～その3～	講義	・不安について考え、説明する。 ・不安の発生源について考え、説明する。 ・感情の発達について考え、説明する。
6	親子関係と心の発達～その4～	講義	・乳児期のスキンップについて考え、説明する。 ・親子の愛着について考え、説明する。
7	性格について	講義	・性格について考え、説明する。 ・心理検査を通して、対人援助職者として、自らの性格について理解する。
8	復習テスト	講義	・1回目から7回目までの復習を行い、試験を実施する。
9	児童期の発達～その1～	講義	・児童期の発達について考え、説明する。 ・道徳について考え、説明する。 ・ギャング・エイジについて考え、説明する。
10	児童期の発達～その2～	講義	・いじめの背景について考え、説明する。 ・いじめ防止のための対策について考え、説明する。
11	思春期の発達～その1～	講義	・思春期について考え、説明する。 ・友人関係について考え、説明する。 ・恋愛関係について考え、説明する。
12	思春期の発達～その2～	講義	・性と心の結びつきについて考え、説明する。 ・乳幼児期～思春期のさまざまな性行動について考え、説明する。
13	成人期の発達～その1～	講義	・お金と心の結びつきについて考え、説明する。 ・お金と人間関係について考え、説明する。
14	成人期の発達～その2～	講義	・結婚について考え、説明する。 ・結婚に関する意識調査を通じて、自らの将来について考える。
15	定期試験	講義	・定期試験を実施する。

科目名	人体の構造と機能Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	脇　雅子
		授業形態	講義		有		
（英）	Structure and Functionof Human Body Ⅰ	時間数	2	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	30			曜日/時間	水曜日　2限　対面

講師紹介	医学博士号を持ち、長年医学部で研究と教育に携わる。滋慶学園ならびに医療系専門学校で基礎医学全般を教授する
目的	事態を構成する器官の構造と機能を理解し、医学的知識を習得する上での基礎知識を幅広く身に着ける
科目概要	細胞、組織を基礎として人体の構造と機能を理解する
到達目標	視能訓練士として必要な医学的・科学的知識を習得し、臨床で生かせるようにする
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	系統看護学講座　解剖生理学　医学書院	事前事後学習とその内容	授業後毎回、必ず復習し、小テストの間違いも確認する
参考図書	ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖生理学を学ぶために	講義	細胞の働きを理解する
2	消化器系	講義	胃、腸など消化管の構造、働きを理解する
3	消化器系	講義	肝臓、膵臓などの構造、働きを理解する
4	循環器系	講義	心臓の構造と働きを理解する
5	循環器系	講義	血圧、血圧に左右する因子などを理解する
6	呼吸器系	講義	呼吸器の構造と働きを理解する
7	呼吸器系	講義	呼吸の仕組み、血液の働きを理解する
8	復習テスト	講義	前半の授業の理解度を確認する
9	泌尿器系	講義	腎臓や泌尿器の構造、働きを理解する
10	内分泌系	講義	内分泌腺、春問の働きを理解する
11	内分泌系	講義	ホルモン名と働きを理解する
12	神経系	講義	神経系の構造、働きを理解する
13	神経家	講義	神経系の構造、働きを理解する
14	免疫系、生殖器系	講義	免疫の仕組み、生殖器の働きを理解する
15	定期試験	講義	後半の理解度を確認する

科目名	医学概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	伊藤　春雄
		授業形態	講義		有		
（英）	Introduction　to Medicine	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限　対面

講師紹介	保有資格：歯科医師。歯学部卒業、医学研究科大学院にて博士(医学)取得。地域で臨床を行いつつ、大学、専門学校にて本科目の教鞭を取り26年。
目的	視能訓練士の国家試験では、この科目としての出題はない。しかし、この科目の内容が出題されることはある。また、医療従事者として知っておくべき事柄が多く含まる。過去の出題を配慮した講義に努める。
科目概要	視能訓練士の全体像を理解するための、視能訓練士の業務内容と取得知識のオリエンテーション。
到達目標	視能訓練士に必要な医学概論に関する知識を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	「コメディカルのための専門基礎分野テキスト医学概論」中外医学	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	医学について	講義	医学の定義　／　医学の歴史　／　医の倫理　について知る
2	人体の構造・機能	講義	人体の構成(細胞、骨、筋肉、血液、循環、呼吸器)について知る
3	人体の構造・機能	講義	人体の構成(消化器、泌尿器、内分泌・ホルモン、神経、生殖器、皮膚、感覚器)について知る
4	臨床医学総論	講義	発熱、ショック、浮腫～動悸、等の臨床症状について知る
5	臨床医学各論	講義	国際疾病分類(ICD)　／　呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器疾患　について知る
6	臨床医学各論	講義	血液・造血器疾患、神経・筋疾患、精神疾患、アレルギー性疾患、膠原病・その他全身疾患、中毒性疾患　について知る
7	臨床医学各論	講義	運動器疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患　について知る
8	復習テスト	講義	
9	臨床医学各論	講義	小児疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム　について知る
10	人口統計	講義	人口静態・動態　について知る
11	健康状態と受療状況　／　医療保障	講義	国民生活基礎調査、患者調査　／　医療保険制度、介護保険制度、国民医療費　について知る
12	医療関係職種　／　医療施設の種類　／　保健医療対策	講義	医療関係職種　／　病院、診療所、等の施設　／母子保健・高齢者保健・精神保健対策　について知る
13	感染症・感染症対策	講義	感染症の種類と予防対策について知る
14	保健医療対策　／　関係法規	講義	難病・腎不全対策、臓器・造血幹細胞移植、関係法規　について知る
15	定期試験	講義	

科目名	視覚生理学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	講義		有		
（英）	Optical Physiology Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜日/2限

講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	この授業では知識を、視覚生理学実習では実技を学びます。知識と実技をうまくつなげられるようになる。
科目概要	視力、視野、色覚、光覚、電気生理の知識を身につける。
到達目標	視力、視野、色覚、光覚、電気生理の知識を身につける。 正しい知識を身につけることによって精度の高い検査を行うことができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学	事前事後学習とその内容	毎回授業後に小テストを実施 授業内容によりレポートの提出を指示する場合があります。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	視力	講義	形態覚の4つの尺度を理解する。 視力の種類、検査条件を理解する。 0.01以下の視力の測り方を理解する
2	視力検査	講義	記載の仕方を理解する。 乳幼児の視力検査の種類を理解する。
3	光覚	講義	光の明るさの単位、可視光線、錐体・杆体を理解する。 暗順応曲線、比視感度曲線を理解する。 コントラスト感度を理解する。
4	視野	講義	視野検査の種類を理解する。
5	視野	講義	視野異常の種類を理解する。
6	色覚	講義	色の3属性、混色法、SML錐体を理解する。 先天色覚異常を理解する。 X染色体劣性遺伝を理解する。
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	中間テスト	講義	
9	色覚	講義	色覚検査の種類を理解する。
10	色覚	講義	色覚検査の方法、記載の仕方を理解する。
11	電気生理	講義	ERGを理解する。
12	電気生理	講義	VEP・EOGを理解する。
13	電気生理	講義	ENG・EMGを理解する。
14	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
15	定期試験	講義	

科目名	視覚生理学実習	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	実習		有		
（英）	Optical Physiology	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士午前部	単位	2			曜日/時間	金曜日／1・2限　対面

講師紹介	▸藤戸　茜】:視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【正信　りさ】:視能訓練士 眼科勤務を経て、視能訓練士の国家資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【江頭　かをり】:視能訓練士 大学にて視能訓練士国家資格を取得。大学病院・総合病院での豊富な実務経験を有する。
目的	視能訓練士として働くうえで基本となる視力検査、眼圧検査、屈折検査ができるようになる。 視野検査の目的・機械操作方法を知り、検査説明ができるようになる。
科目概要	視覚生理学に基づいた実習授業
到達目標	視能訓練士に求められる業務を理解する。 検査目的を理解し、信頼値の高い検査にするための工夫を自ら考え、検査ができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学　眼科検査ガイド　エキスパート検査学	事前事後学習とその内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	被検者になる 実習室の使い方	実習	2年生との合同検査。先輩はどのように声をかけ検査をしているかを意識し患者役に徹する。また、検査結果から自分の屈折を知る。 実習室の使い方について。
3・4	レフラクトメータ・ノンコンタクトトノメータ	実習	屈折検査・眼圧検査の方法を学ぶ。
5・6	視力検査（最高球面度数決定まで） 静的視野検査 レフラクトメータ・ノンコンタクトトノメータ	実習	4グループに分かれ、1週間ごとに視力検査、視野検査、屈折検査・眼圧検査を学び練習する。 視力検査では球面レンズで矯正視力を測ってみる。また、その記載方法を学ぶ。
7・8	視力検査（最高球面度数決定まで） 静的視野検査 レフラクトメータ・ノンコンタクトトノメータ	実習	4グループに分かれ、1週間ごとに視力検査、視野検査、屈折検査・眼圧検査を学び練習する。 視力検査では球面レンズで矯正視力を測ってみる。また、その記載方法を学ぶ。
9・10	視力検査（最高球面度数決定まで） 静的視野検査 レフラクトメータ・ノンコンタクトトノメータ	実習	4グループに分かれ、1週間ごとに視力検査、視野検査、屈折検査・眼圧検査を学び練習する。 静的視野検査ではその目的・機械の操作方法・検査説明の仕方を学ぶ。
11・12	視力検査（最高球面度数決定まで） 静的視野検査 レフラクトメータ・ノンコンタクトトノメータ	実習	4グループに分かれ、1週間ごとに視力検査、視野検査、屈折検査・眼圧検査を学び練習する。 レフラクトメータや眼圧計の操作方法・目的・被検者への声のかけ方を学ぶ。
13・14	テストにむけ練習	実習	これまでの授業を復習し、次週の中間試験のための練習をする
15・16	中間テスト	実習	
17・18	静的視野検査・動的視野検査（輝度調整） レフ・眼圧・ETDRS・コントラスト・CFF 視力検査（クロスシリンダー）	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各授業テーマを学び練習する。 動的視野検査では検査前の機械の準備について、静的視野との違いについて学ぶ。 視野の正常範囲について学ぶ。
19・20	静的視野検査・動的視野検査（輝度調整） レフ・眼圧・ETDRS・コントラスト・CFF 視力検査（クロスシリンダー）	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各授業テーマを学び練習する。 コントラスト感度やETDRSの基礎知識を学ぶ。 CFFの操作方法・目的・検査方法について学ぶ。
21・22	静的視野検査・動的視野検査（輝度調整） レフ・眼圧・ETDRS・コントラスト・CFF 視力検査（クロスシリンダー）	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各授業テーマを学び練習する。 視力検査ではクロスシリンダーを使用し、乱視の検出や矯正方法・記載方法を学ぶ。
23・24	静的視野検査 電気生理検査 視力検査（クロスシリンダー）	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各授業テーマを学び練習する。 静的視野検査では検査中のチェックポイントや、結果の解析方法について学ぶ。
25・26	静的視野検査 電気生理検査 視力検査（クロスシリンダー）	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各授業テーマを学び練習する。 電気生理検査では網膜電図の目的と検査方法について学ぶ。
27・28	自由練習	実習	これまでの授業を復習し、次週の中間試験のための練習をする
29・30	定期テスト	実習	

科目名	視器の解剖生理学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	講義		有		
（英）	Anatomical Physiology of Visual organs Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜日　1時限　対面

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて豊富な実務経験を有し、2024年より専門学校にて専任教員を務める。
目的	日常生活における情報の8割は視覚によってもたらされていると言われている。 視能訓練士を目指す学生にもっとも理解していただきたいのは「見えるという仕組みの精巧さ」である。「見える」ということが決して単一なものではなく、複雑で大変素晴らしい仕組みによって成り立っていることを理解し、医療職者として活躍していただきたいと願っている。
科目概要	眼疾患によって視器能を喪失することは重大なクオリティ・オブ・ライフの低下を招く。眼疾患を患った患者様のニーズに的確に応えるためには正しい知識が必要である。そのために本授業では業務に直結する内容や演習を取り入れていく予定である。
到達目標	正しい眼球の図を描くことが出来、立体的にイメージすることができる。 視器および付属器の名称を覚える。 それぞれの役割、生理機構を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学第3版	事前事後学習とその内容	毎回授業後に小テストを実施 授業内容により、レポートの提出を指示する場合があります。
参考図書	現代の眼科学　標準眼科学		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	骨、筋、神経などのおおまかな仕組みがわかる。 眼球を立体的にイメージしながら水平断面図を書くことができる。
2	眼球外膜（角膜・強膜）	講義	眼球外膜（角膜・強膜）のはたらきを説明することができる。
3	眼球中膜（ぶどう膜・虹彩・毛様体・脈絡膜）	講義	眼球中膜（ぶどう膜・虹彩・毛様体・脈絡膜）のはたらきを説明することができる。
4	眼球内膜（網膜①）	講義	眼球内膜（網膜）　網膜を層で捉え、はたらきを説明することができる。
5	眼球内膜（網膜②）	講義	眼球内膜（網膜）　網膜を面としてとらえ、はたらきを説明することができる。
6	眼球内容物	講義	房水・水晶体・硝子体のはたらきを説明することができる。
7	眼球付属器①	講義	眼瞼・結膜・涙器のはたらきを説明することができる。
8	復習テスト	講義	
9	眼球付属器②	講義	眼窩・外眼筋のはたらきを説明することができる。
10	眼球血管系	講義	動脈・静脈それぞれの血管の走行状態と役割を説明することができる。
11	視神経・視路	講義	視神経から視中枢までの解剖学的名称を言うことができ、その特徴を説明できる。
12	脳と神経	講義	脳の分類と脳神経が言える。 水平眼球運動が説明できる。
13	眼の自律神経	講義	対光反応の仕組みを説明することができる。
14	視覚器の発生	講義	眼組織の発生起源が言える。
15	定期試験	講義	

科目名	障がい者支援学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	上坂　実
		授業形態	演習		○		
（英）	Disabled support Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜日/2限：対面

講師紹介	一般社団法人日本スポーツビジョン協会にて普及養成担当ディレクターを務める他、同協会公認エグゼティブインストラクターとして豊富な実務経験を有する。同協会における資格講習会を担当し、多数のスポーツビジョントレーニングインストラクターを輩出。また、様々な世代に対するスポーツビジョントレーニング提供している。スポーツビジョンは、スポーツ選手だけのものではなく、このスマホを始めとするデジタルデバイスが普及した時代において、子どもから高齢者までのあらゆる人にとってのライフスキルであると考える。
目的	視能訓練士として快適な視生活を支える活動するために、周辺スキルとしてのスポーツビジョンの理論を理解する。
科目概要	スポーツビジョンの理論およびトレーニング実技を実践・体感するとともに周辺知識の習得。
到達目標	スポーツビジョンの理論とスポーツビジョントレーニングの意義を理解し、様々な視機能に対するトレーニング方法とその効果について学ぶ。 視機能を「入力」とするならば、スポーツビジョンは「入力」から脳を介しての判断や行動、即ち「出力」に至るまでに対してアプローチすることを理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	スポーツビジョン医科学教本、スポーツビジョン基礎と実践	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、認めた内容についてのみ写真撮影および録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	スポーツビジョンとは①	演習	・視力と「見る力」の違い ・人は脳で見ている ・「見る力」が衰えている現代人
2	スポーツビジョンとは②	演習	・様々な視機能 ・スポーツビジョンの歴史 ・国内におけるビジョントレーニングの現状
3	スポーツビジョントレーニングの効果	演習	・視機能の向上 ・トレーニング提供に際しての注意 ・様々なトレーニング方法
4	スポーツビジョンの測定とアセスメント	演習	・「V-Training」を使用したスポーツビジョン測定
5	脳神経学-臨界期可塑性	演習	・電気通信大学、脳・医工学研究センター 元特任教授である田中繁 理学博士による特別講義
6	スポーツビジョントレーニングの構成要素	演習	・情報処理能力を高め、出力機能を向上させる ・リズムが及ぼす効果
7	スポーツビジョントレーニングの実践	演習	・対象別のトレーニングの実例
8	中間試験	演習	筆記試験 （第1回～第7回の講義内容から出題）
9	眼とメンタル	演習	・眼とメンタルの関連性 ・メンタルトレーニング
10	光工学-視覚と知覚	演習	・東海大学、情報理工学部教授である室谷裕志 工学博士による特別講義
11	眼と身体の協応	演習	・情報処理能力を高め、出力機能を向上させる ・リズムが及ぼす効果
12	視機能とリハビリテーション	演習	・国際医療福祉大学、助教である須藤大輔 保健医療学博士による特別講義
13	スポーツの眼外傷	演習	・競技別の傾向 ・スポーツの眼外傷の予防
14	スポーツビジョン指導者の活動	演習	・トレーニング提供やメニューの組み立て ・指導者の活躍の場
15	定期試験	演習	筆記試験 （講義内容全範囲から出題）

科目名	視能矯正学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	芝田　理恵
		授業形態	講義		有		
（英）	Orthoptics Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/2限　選択

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学にて視能訓練士の資格を取得。 病院、眼科医院にて豊富な実務経験を積み、専任講師として専門学校において教務を行い現在に至る。
目的	①視能矯正学の基礎を学ぶ。 ②弱視、斜視の理論の学びを実習科目の実施に繋げる。 ③視能訓練士への関心を高め、国家試験取得への意識付け行う。
科目概要	視能訓練士の専門分野である視能矯正学の基礎にあたる学問
到達目標	①斜視の基礎となる外眼筋の解剖と眼球運動、その法則を知識とする。 ②正常両眼視機能を理解し、複視の機序の説明ができる。 ③後期の「視能矯正学実習」の土台となる「網膜対応」の基礎を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学、視能矯正学	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション・眼位	講義	授業の進め方、小テストの実施方法について 眼位の定義、種類、状態
2	外眼筋の作用と眼球運動①	講義	外眼筋の解剖 外眼筋とその神経支配（脳神経）
3	外眼筋の作用と眼球運動②	講義	外眼筋の作用方向 外眼筋の視方向による上下・回旋作用
4	外眼筋の作用と眼球運動③	講義	単眼運動・両眼運動 眼球運動の正常範囲 外眼筋の作用に関する法則
5	輻湊・開散と調節①	講義	輻湊・開散の定義 輻湊の分類 輻湊と調節の関係
6	輻湊・開散と調節②	講義	近見反応 輻湊と開散の測定方法と正常値
7	輻湊・開散と調節③	講義	輻湊・開散の障害（疾患と特徴）
8	中間テスト	講義	筆記試験（講義内容全範囲から出題）
9	AC/A比①	講義	AC/A比の定義 AC/A比の検査（基礎）
10	AC/A比②	講義	AC/A比の検査（種類別） AC/A比の計算 AC/A比の障害
11	正常両眼視機能①	講義	両眼視の定義 両眼視機能（同時視・融像・立体視） 正常両眼視機能成立の条件
12	正常両眼視機能②	講義	Panum融像感覚圏 固視・固視ずれ
13	複視①	講義	複視の種類
14	複視②	講義	同側性複視 ・交差性複視
15	定期試験	講義	筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	生理光学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	今井　哲也
		授業形態	講義		有		
（英）	Physiologic Optics Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日　1限

講師紹介	保有資格：視能訓練士（2009年） 大学を卒業後に病院・個人眼科医院にて5年間の豊富な実務経験を経て専任講師として専門学校の教務を行い現在に至る。
目的	視能訓練士として必要なになるレンズ光学を中心に屈折検査や眼鏡矯正などで物理的には見えない変化を理解する
科目概要	焦点距離・スタムのコノイド・プリズム効果・調節力と明視域
到達目標	レンズの基本構造を理解し、矯正などの数値から患者の状況を推察できるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学・屈折異常とその矯正・視能学エキスパート	事前事後学習とその内容	講義翌週の授業初めに小テストを行うので復習を行うこと。
参考図書			
特記事項	義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生理光学の基礎	講義	光の特徴・レンズの種類・レンズ収差・レンズの主要点などこれ学ぶ言葉を知る
2	眼球光学の基礎	講義	眼球解剖から眼球光学の基礎を学ぶ
3	屈折異常（遠視）	講義	遠視の定義と種類・特徴を学ぶ
4	屈折異常（近視）	講義	近視の定義と種類・特徴を学ぶ
5	焦点距離の計算	講義	レンズ度数と焦点距離の関係を学ぶ
6	屈折異常（乱視）	講義	経線と焦線の違いを認識し、乱視の分類が行える
7	Sturmの間隔	講義	ここまで学んできた内容から屈折異常を図示する方法学ぶ
8	中間テスト	講義	
9	他覚的屈折検査	講義	測定原理と計算式を学ぶ
10	調節力と明視域	講義	遠点・近点・調節力を学び明視域を導き出す。
11	プリズム	講義	プリズムの特性を理解し、プレンティスの公式を学ぶ
12	物体・レンズ・像	講義	レンズを通して像が作られる原理を学ぶ
13	矯正方法による計算の違い	講義	頂点間距離の変更に伴う矯正度数の変化を学ぶ
14	計算復習	講義	これまでの内容をより実践で用いる方法を学ぶ
15	定期試験		

科目名	生理光学実習Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	実習		有		
（英）	Practical Training in Physiologic Optics Ⅰ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜／1・2限　対面

講師紹介	▸藤戸　茜】:視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【正信　りさ】:視能訓練士 眼科勤務を経て、視能訓練士の国家資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【江頭　かをり】:視能訓練士 大学にて視能訓練士国家資格を取得。大学病院・総合病院での豊富な実務経験を有する。
目的	視力検査が行える。 動的視野検査の基本操作が行える。
科目概要	視能訓練士が行う検査のほとんどを占める視力検査・視野検査の実習授業
到達目標	乱視表やクロスシリンダーでの乱視検出ができる。 GPの輝度調整や操作ができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	検査ガイド・視能学・エキスパート検査学	事前事後学習とその内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	GP・HFA・レンズメータ・PD計・検影法・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
3・4	GP・HFA・レンズメータ・PD計・検影法・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
5・6	GP・HFA・レンズメータ・PD計・検影法・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
7・8	GP・HFA・レンズメータ・PD計・検影法・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
9・10	GP・HFA・レンズメータ・PD計・検影法・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
11・12	GP・HFA・レンズメータ・PD計・検影法・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
13・14	中間テスト対策	実習	中間テストに向け、練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	GP・対座法・アムスラーチャート・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
19・20	GP・対座法・アムスラーチャート・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
21・22	GP・対座法・アムスラーチャート・視力	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
23・24	OCT・眼底カメラ・トポグラフィー・オフサルモメータ・スペキュラー	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
25・26	OCT・眼底カメラ・トポグラフィー・オフサルモメータ・スペキュラー	実習	3グループに分かれ、1週間ごとに各テーマの検査を学ぶ。
27・28	期末試験対策	実習	期末試験に向け、練習する。
29・30	期末試験	実習	

科目名	視能訓練学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	正信　りさ
		授業形態	講義		有		
（英）	Orthoptics Ⅰ（Training）	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	火曜日/2限目

講師紹介	眼科勤務を経てから視能訓練士資格取得。その後総合病院やクリニックにて豊富な実務経験を有する。 塾講師の経験を活かし、2020年より医歯薬で講師となる。
目的	基本となる視能矯正学の知識をもとに、症状や疾患に合わせた訓練・治療の方法を学ぶ。
科目概要	斜視、弱視の訓練、治療
到達目標	知識を身につけ、国家試験問題を解けるようになる。 臨床現場において正しい治療、訓練を行えるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学	事前事後学習とその内容	毎回授業後に小テストを実施 授業内容によりレポートの提出を指示する場合があります。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	両眼視機能	講義	これまでの矯正学の復習をしながら両眼視機能とはどのようなことか、検査にはどのようなものがあるのかを学ぶ
2	斜視	講義	斜視の分類について学ぶ
3	斜視	講義	斜視の訓練・治療について学ぶ
4	弱視	講義	弱視の意味・分類について学ぶ
5	弱視	講義	弱視の訓練・治療について学ぶ
6	小児	講義	小児の視機能の特性や検査について学ぶ
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	中間テスト	講義	
9	斜視訓練	講義	大型弱視鏡を用いた抑制除去訓練、網膜対応異常の矯正訓練、融像訓練、輻湊訓練、について学ぶ。
10	斜視訓練 弱視治療	講義	斜視訓練、弱視各型の復習をする。 屈折矯正治療について学ぶ。 治療前～治療後までの流れを理解する。
11	斜視治療	講義	観血療法について学ぶ
12	弱視治療	講義	眼振の分類や特徴について学ぶ
13	弱視治療	講義	身体表現性障害について学ぶ。
14	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
15	期末試験	講義	

科目名	視能矯正学実習Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	芝田　理恵
		授業形態	実習		有		
（英）	Practical Training in Orthoptics Ⅰ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	金曜／1・2限　対面

講師紹介	▸【芝田　理恵】:視能訓練士 大学にて視能訓練士の国家資格を取得。病院、眼科医院にて豊富な実務経験を有する。 ▸【越田　愛生】:視能訓練士 専門学校にて視能訓練士の国家資格を取得。眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【江頭　かをり】:視能訓練士 大学にて視能訓練士の国家資格を取得。大学病院、総合病院にて豊富な実務経験を有する。
目的	眼位・眼球運動検査の目的と正常値を理解し、正しい検査方法を身につける。 大型弱視鏡の操作方法を知り、検査の目的と正常値を理解し、円滑な検査説明ができる。
科目概要	眼位・眼球運動などの両眼視機能にまつわる検査の実習授業□
到達目標	眼位・眼球運動検査でみるべきポイントを理解し、検査結果を記載できる。 大型弱視鏡の操作ができ、円滑に検査を行うための声掛けができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学　検査ガイド　エキスパート検査学	事前事後学習とその内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	3年生実習報告会	実習	3年生の実習報告を受けて、実習について学びを深める。
3・4	眼位検査（定性検査）	実習	角膜反射、カバーアンカバーテスト それぞれ目的を理解し、どの場合にどこをみるのかを徹底し練習する。
5・6	眼位検査（定性検査）	実習	角膜反射、カバーアンカバーテスト 前回の学習内容を踏まえてカルテの記載方法について学ぶ。
7・8	眼位検査（定量検査）	実習	2グループに分かれ、プリズムバー・大型弱視鏡をによる定量の仕方を学び練習する。 目的を理解し、スムーズな声掛けと検査結果の記載ができるようにする。
9・10	眼位検査（定量検査）	実習	2グループに分かれ、プリズムバー・大型弱視鏡をによる定量の仕方を学び練習する。 目的を理解し、スムーズな声掛けと検査結果の記載ができるようにする。
11・12	眼位検査（定量検査）	実習	2グループに分かれ、プリズムバー・大型弱視鏡をによる定量の仕方を学び練習する。 目的を理解し、スムーズな声掛けと検査結果の記載ができるようにする。
13・14	中間テストにむけ練習	実習	眼位・眼球運動を中心にこれまで学んだ検査を復習し練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	立体視検査	実習	2グループに分かれ、1週間ごとに各テーマを学び練習する。 立体視検査ではさらに3グループに分かれ、一人ずつ担当検査を決め、グループのメンバー全員が目的や検査方法を理解できるように教え合う。
19・20	大型弱視鏡（9方向）	実習	2グループに分かれ、1週間ごとに各テーマを学び練習する。 大型弱視協では9方向検査ができるようにする。
21・22	HESS・固視検査・注視野	実習	2グループに分かれ、1週間ごとに各テーマを学び練習する。 HESS検査では目的・検査方法・記載方法を学び練習する。
23・24	AC/A比	実習	AC/A比の計算方法を学び、色々な検査方法でAC/A比をだしてみる。 PD測定の復習。
25・26	眼位眼球運動検査 大型弱視鏡検査	実習	これまで学んだ検査の復習をし、期末試験へむけてスムーズな検査ができるように練習する。
27・28	眼位眼球運動検査 大型弱視鏡検査	実習	これまで学んだ検査の復習をし、期末試験へむけてスムーズな検査ができるように練習する。
29・30	期末試験		

科目名	臨地実習Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	実習		有		
（英）	Clinical Practice Ⅰ	時間数	40	授業回数	20	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	1			曜日/時間	月曜日～土曜日

講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	視能訓練士の仕事の実際を知る。 医療職の在り方を認識し、チーム医療の一員としての責任と自覚を持つ。
科目概要	視能訓練士としての社会的役割を理解し行動目標を明確にするオリエンテーション
到達目標	チーム医療の実際を知る。 患者様に対して、対応の実際を知る。 医療の意義を知り、その達成に必要なことを考え学びに繋げる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	視能学	事前事後学習とその内容	実習レポートを提出し、振り返りを行う。
参考図書			
特記事項	写真撮影及び録音録画を一切許可しない。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	実習	臨地実習の目的について（実習準備）
2～19	臨地実習	実習	医療機関にての見学実習
20	実習後教育	実習	臨地実習の振り返り

科目名	プロ養成講座	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	講義		有		
（英）	Career Development	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜日・月曜日/授業後　対面

講師紹介	越田　愛生 2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	①学則を理解や人間関係の構築により円滑に学校生活を送る。 ②外部実習に必要な心構えを知り、行動に繋げる。 ③自分自身で成長する力を身につける。
科目概要	視能訓練士としての社会的役割を理解し行動目標を明確にするオリエンテーション
到達目標	①学則を理解し行動ができる。 ①豊かな人間関係を構築し、有意義な学校生活を送る。 ②目標・目的を意識し、その達成に必要なことを考え学びに繋げる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　）

教科書	視能学・視能矯正学	事前事後学習とその内容	事後学習として、課題やレポートを都度提出し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	1・3年生合同授業振り返り	講義	検査項目と検査方法 結果の見方
2	4月振り返り・連休の過ごし方	講義	最初の1か月振り返り・連休中について
3	視能訓練士と学校生活①	講義	視能訓練士の業務 1年次の到達目標
4	視能訓練士と学校生活②	講義	自分自身の「強み」と「課題」 自分に必要な「自己変革」
5	学習方法	講義	効果的な学習方法 時間管理
6	中間テストについて	講義	中間テストの実施方法と準備
7	中間テスト準備	講義	中間テストの準備
8	夏季休暇の過ごし方	講義	夏季休暇課題 夏季休暇のスケジュール作成
9	レポートの書き方①	講義	レポート作成について
10	保育実習について	講義	保育実習概要
11	国際性講座について	講義	国際性講座の概要 目的・内容
12	見学実習について①	講義	見学実習の概要
13	レポートの書き方②	講義	見学実習に向けてレポートの書き方
14	1・2年生合同検査振り返り	講義	検査項目と検査方法 結果の見方
15	1年生振り返り	講義	1年生総まとめ 2年生に向けて目標

科目名	対人援助講座	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野亮子
		授業形態	演習		有		
（英）	Commubication	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	4			曜日/時間	集中授業（8月・9月）

講師紹介	幼稚園教諭、保育士の資格を持ち、幼稚園、保育所での乳幼児保育・教育の30年間の豊富な実務経験を有する。専門学校に於いては講師として20年間の経験がある。
目的	視能訓練士として、現場に於いて子どもと関わることも多い為、子どもへの関心を持ち、子どもの発達や関わり方を理解し、子ども理解をする。
科目概要	子どもの発達や遊び、関わり方について学ぶ。
到達目標	視力検査で接することが多い就学前の子どもの行動性を理解し、対応する力を身に付ける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	池田書店「0～6歳　よくわかる子どもの発達と保育の本」	事前事後学習とその内容	その日の授業の振り返りを必ず行う。普段の生活の中での子どもの観察（登下校時、電車の中、買い物時等）を通して子どもに関心を持ち、子ども理解に努める。
参考図書			
特記事項	集中授業（対面・オンデマンド）		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 対人援助職について・保育所について	講義	教科内容について 対人援助職について理解する。グループワークで対人援助職について考える。 保育所の役割等について理解する。
2	0・1・2歳児クラスの発達や遊び、関わり方について	講義	0・1・2歳児クラスの運動機能、言葉、人間関係、遊びの特徴、実習生のかかわりの留意点について理解する。
3	3・4歳児クラスの発達や遊び、関わり方について	講義	3・4歳児クラスの運動機能、言葉、人間関係、遊びの特徴、実習生のかかわりの留意点について理解する。
4	5歳児クラスの発達や遊び、関わり方について　気になる子どもについて	講義	5歳児クラスの運動機能、言葉、人間関係、遊びの特徴、実習生のかかわりの留意点について、気になる子どもについて理解する。
5	保育所の1日の流れと実習生のかかわりについて（DVDを観て1日の流れを知る）実習課題を立てる。	講義	DVDを観て、保育所の1日の流れを理解し、実習生のかかわりを理解する。実習に向けて自分の課題を明確にする。
6	保育実習　発達の大きな特徴について　児童文化財について	演習	運動機能、認知・言語、自我・社会性、基本的生活習慣について理解する。児童文化財について理解する。
7	保育実習　発達に適した環境について　児童文化財について	演習	0歳～6歳の遊びについて理解する。児童文化財について理解する。保育実習を振り返り課題を見つけることが出来る。
8	保育実習　中間試験（1回目～7回目授業内容振り返り）	演習	1回目～7回目の授業内容を振り返り、理解する。中間試験　保育実習を振り返り課題を見つけることが出来る。
9	保育実習　乳児保育のポイントについて	演習	保育実習を振り返り課題を見つけることが出来る。乳児クラス（0歳～2歳）の発達に沿ってのかかわりのポイントについて理解する。
10	保育実習　幼児保育のポイントについて	演習	保育実習を振り返り課題を見つけることが出来る。幼児クラス（3歳～6歳）の発達に沿ってのかかわりのポイントについて理解する。
11	保育実習の振り返りをする。（グループワーク）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について	講義	グループで保育実習の振り返りをしお互いに意見交換をする。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解する。
12	前期定期試験	講義	前期授業内容を振り返る。 前期定期試験内容が理解出来る。
13	視力検査（小学校）	実習	
14	視力検査（保育所）	実習	
15	視力検査（保育所）	実習	

科目名	導入教育Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	演習		有		
（英）	Introductory Education Ⅰ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	視能訓練士学科午前部	単位	1			曜日/時間	集中講座

講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて5年間の豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	入学の目的を認識し環境を整えることで、円滑な学びに繋げる。 視能訓練士として、社会人として、多様なニーズに対応ができる能力を習得する。
科目概要	視能訓練士としての社会的役割を理解し行動目標を明確にするオリエンテーション
到達目標	様々な体験を通して自身の知見を広げ、積極的に学ぶ姿勢を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、課題（レポート・振り返り）を実施することで、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	新入生オリエンテーション	講義	学校生活について・自己紹介・教員紹介
3・4	新入生オリエンテーション	演習	teamsの利用法について
5・6	新入生オリエンテーション	講義	時間割について説明
7・8	実習報告会	演習	先輩たちの実習報告を受け、自身の臨地見学実習に向けてやるべきことを考える

	導入教育Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	演習		有		
（英）	Introductory EducationⅡ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	視能訓練士学科午前部	単位	1			曜日/時間	集中講座

講師紹介	越田　愛生 2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	資格取得後も常に学ぶ姿勢が重要であることを認識する。 学外研修などを通して、視能訓練士として多様なニーズに対応ができる能力を習得する。
科目概要	視能訓練士としての社会的役割を理解し行動目標を明確にするオリエンテーション
到達目標	様々な体験を通して自身の知見を広げ、積極的に学ぶ姿勢を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、小テストの復習や課題を実施することで、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	中間試験オリエンテーション	講義	定期試験のルールの説明 服装、髪型の確認
2.3	合同検査	演習	患者役を体験し、自身が検査する時の接遇について考える
4.5	外部実技試験	演習	臨地見学実習に向けて検査手技を確認する
6	実習前教育	講義	臨地見学実習における心構えを学ぶ
7	クーパービジョンによる授業	演習	臨地見学実習での学びをより深めるためにコンタクトレンズについて学ぶ
8	実力テスト	演習	1年間で学んだことの総復習を行う
		講義	
		講義	
		講義	

科目名	国際教育	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	演習		無		
（英）	Overseas Fieldwork	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	1			曜日/時間	集中講座

講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	臨床において多様な人種が受診する機会が増えており、言語だけではなく文化への理解が必要となっている。どんな場面にも対応ができる柔軟な考えと行動を持つ人材となる。
科目概要	視能訓練士としての社会的役割を理解し行動できる人材となるためのオリエンテーション
到達目標	異文化に対して積極的に知ろうとする意識を持ち、丁寧な接遇が行える。
評価方法	出席率、個人課題評価の要素で評価する。評価はS（合格）またはU（不合格）にて表記する。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	コンタクトレンズの製造	講義	国産コンタクトレンズの製造方法を知ることにより海外製品との違いを考える。
2	コンタクトレンズの製造	演習	国産コンタクトレンズの製造方法を知ることにより海外製品との違いを考える。
3	コンタクトレンズの製造	演習	国産コンタクトレンズの製造方法を知ることにより海外製品との違いを考える。
4	コンタクトレンズの製造	演習	国産コンタクトレンズの製造方法を知ることにより海外製品との違いを考える。
5	医療発展途上の現状	講義	NPO法人の講演から医療発展途上国の現状を理解する。
6	医療発展途上の現状	演習	NPO法人の講演から医療発展途上国の現状を理解する。
7	研究成果発表	講義	先輩方の発表を聞き、自己表現について考える
8	研究成果発表	演習	先輩方の発表を聞き、自己表現について考える